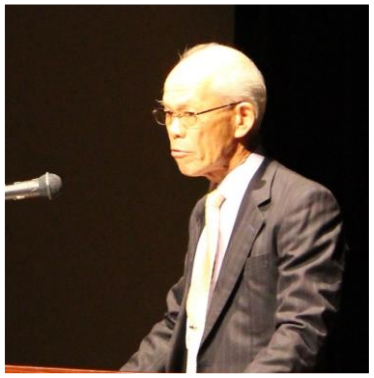
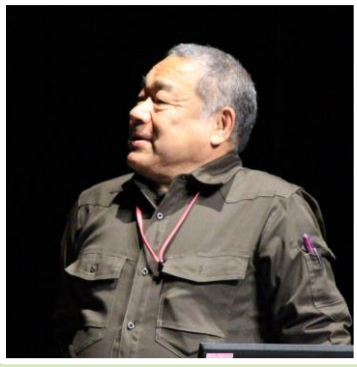
令和元年度
協働によるまちづくり
活動発表会

開 催 報 告 書



～来て、見て、活かす！
まちづくりのヒントが満載～



主催：掛川市
共催：掛川市地区まちづくり協議会連合会

目　次

主催者・共催者あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
開催結果概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
アドバイザー紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

まちづくり活動事例発表資料（アドバイザー講評）
①　桜木地区まちづくり協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　【　チーム桜木！掛川の元気は桜木から！　】
②　協働遠州　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　【　掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト　】
③　ユニ・チャーム株式会社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
　【　ユニ・チャームが目指す共生社会実現への取り組み　】
④　京都府城陽市青谷コミュニティセンター運営委員会　・・・・　13
　【　青谷コミュニティセンターの取り組み　】

アドバイザー講評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
まちづくり活動団体紹介エリア　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
アンケート結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

掛川市長　あいさつ

「協働によるまちづくり活動発表会」に、多数の方々にご参加いただき、誠にありがとうございます。

令和の新しい時代を迎え、今年は東京２０２０オリンピック・パラリンピックが開催され、日本全体が沸き立つ１年となることが期待されます。

掛川市としましても、世界規模の大イベントとなりますので掛川城周辺での聖火リレーの開催、事前キャンプの受け入れなどにより、機運を盛り上げていきたいと考えています。

また、国連サミットで採択された「ＳＤＧｓ」の考え方を踏まえ、これからの２０年を見据えた行政運営をしてまいります。今年改定する総合計画を、掛川版「ＳＤＧｓ」として位置づけ、持続発展可能なまちづくりと誰１人取り残さない社会の実現に向け、子育て支援、産業の振興、災害への備えなど、様々な施策を戦略的に展開してまいります。

さて、掛川市では、市民の皆さんをはじめ多くの方々との対話を重ね「協働のまちづくり」の推進を図ってまいりました。平成２８年に市内全域に地区まちづくり協議会が設立され４年が経過しようとしています。それぞれの地域特性にあった活動に加え、地域で抱える課題解決のために、地元の企業や市民活動団体、さらには地区まちづくり協議会同士が連携して進めていこうとする取組が増えてきており、「協働のまちづくり」が一歩ずつ着実に前進していることを感じています。

２０年先の幸せで豊かな掛川市を築くうえで、地域、市民活動団体、企業などの皆様が連携して主体的に行うまちづくりが、必要不可欠であります。本日ご発表いただく活動の中から、今後の取組をさらに充実していくための考え方やアイデア、協働のヒントを見つけていただきたいと思います。そして、地域やそれぞれの団体に持ち帰っていただき、多くの皆様と共有することで、まちづくり活動がさらに広がることを期待しております。

掛川市長　松井三郎

地区まちづくり協議会連合会　会長　あいさつ

令和元年度「協働によるまちづくり活動発表会」にご出席いただきまして、ありがとうございます。また、日頃は、各地区まちづくり協議会の活動にご尽力をいただきまして誠にありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。

この活動発表会も平成２８年に初めて開催し、今回で５回目となります。年を追う毎に協議会の活動も充実し、毎年期待をもって拝聴させていただいております。各団体の自慢の活動をお聞きすることで、情報の共有化と活動の水平展開が図られるものと期待しております。

さて、昨年は色んなことがありました。年号が「平成」から「令和」に変わり、天皇陛下の「即位礼正殿の儀」などの催しがあり、市内においても祝賀行事が行われました。また、ラグビーワールドカップでは、エコパで日本が優勝候補のアイルランドを破り「静岡の風」と呼ばれ、結果ベスト８に進出。「ワンチーム」が流行語大賞に選ばれました。この「ワンチーム」は、地域コミュニティに通じるものだと思っております。

一方で、異常気象による大規模な風水害も発生しました。今年はオリンピックの年であります。災害のない穏やかな一年であることを願うものであります。災害が発生したとき、何が大事か。それは、向こう３軒両隣が支え合う絆の強さであり、地域コミュニティの力だと思っております。地区まちづくり協議会は、そうしたコミュニティを作るための組織でもあります。

今年は、地区まちづくり協議会ができて５年目であります。それぞれの協議会が描いたビジョンに沿った活動になっているか、検証していただきたいと思っております。

結びに、新たな１年が各地区まちづくり協議会にとって実り多き年となることを祈念して挨拶といたします。

掛川市地区まちづくり協議会連合会　会長　中村　隆哉

協働によるまちづくり活動発表会

～来て、見て、活かす！ まちづくりのヒントが満載～

開催結果概要

（１）事 業 名　令和元年度　協働によるまちづくり活動発表会開催事業

（２）日　　時　令和２年１月２５日（土）１３：３０～１５：３０

（３）会　　場　掛川市文化会館シオーネ　大ホール

（４）主 催 等　主催：掛川市（まちづくり協働センター（生涯学習協働推進課））
共催：掛川市地区まちづくり協議会連合会

（５）目　　的　自治基本条例に基づき、平成２８年度に市内全域に地区まちづくり協議会が設立し４年が経過しようとしています。自らの地域をより良くしたいとの想いから、それぞれの地域特性に応じたまちづくりが、地区まちづくり協議会や市民活動団体及び企業等の活動により活発に進められております。

これらの素晴らしい活動をより多くの皆さんに知っていただき、まちづくりへの新たな気づきを得る場とすることで、協働のまちづくりの確実な進展に向けた、ステップアップの小さな一歩の一助として「協働によるまちづくり活動発表会」を開催しました。

（６）内　　容　・まちづくり活動発表会

【発表団体】４団体

（地区まちづくり協議会、市民活動団体、企業、他市事例、各１団体）

協働の視点で特色あるまちづくり活動を行った団体が、その活動を発表することで、あらゆるセクションからの参加者がまちづくりへの関わりや、自らができることを意識し、今後の取り組みへの気づきを得る場となりました。また、アドバイザーによる講評からさらなる活動発展へのヒントがありました。

・まちづくり活動団体紹介エリア（ホワイエ・玄関前）

【展示団体】５３団体

（令和元年度掛川市市民活動推進事業採択団体　４団体、
市民活動団体　４９団体）

パネル展示により、市内外で行われている様々なまちづくり活動の取組を紹介し、交流のきっかけの場づくりとなりました。

（７）参 加 者　２５０人

（地区まちづくり協議会等１６９人、市民活動団体等１６人、行政３０人、一般６人、その他２９人）

まちづくり活動事例発表

① 桜木地区まちづくり協議会
【　チーム桜木！掛川の元気は桜木から！　】

② 協働遠州
【　掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト　】

③ ユニ・チャーム株式会社
【　ユニ・チャームが目指す共生社会実現への取り組み　】

④ 京都府城陽市青谷コミュニティセンター運営委員会
【　青谷コミュニティセンターの取り組み　】

アドバイザー 紹介

千野 和子
Chino　Kazuko

(公財) ふじのくに未来財団
副代表理事

公益財団法人ふじのくに未来財団
副代表理事として、「もっと、いいまちにしたい」と、自ら汗をかき活動している皆さんを応援するため、人材や資金等の情報を提供しています。

川端 務夢
Kawabata　Tsutomu

掛川市協働の
まちづくりアドバイザー

掛川市協働アドバイザー（2015～）
静岡県のＮＰＯ中間支援機関のセンター長を歴任し、現在は市内外の市民活動等へのサポートを精力的に行っています。

上記まちづくり団体のまちづくり活動事例の発表に対し、講評をいただくアドバイザーを紹介します。

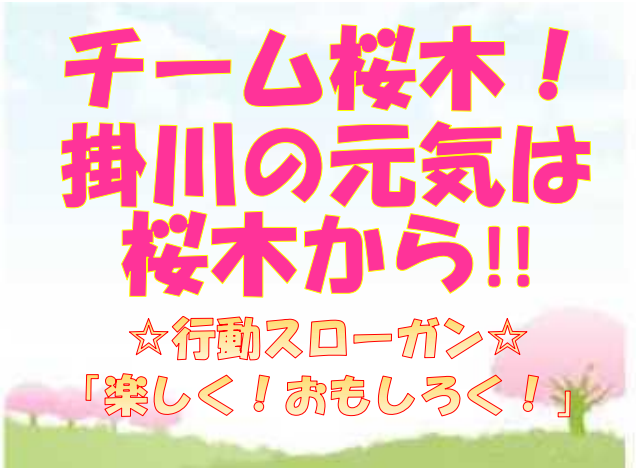
活動発表①

桜木地区まちづくり協議会

チーム桜木！掛川の元気は桜木から！

「誰もが安心して生き生き暮らせるまち」「ひとりひとりの願いがかなうまち」を目指して、「チーム桜木！掛川の元気は桜木から！」をスローガンに、「楽しく！おもしろく！」をモットーにまちづくりに取り組んできました。

特に女性の参加が多く、まちづくりの事業がいつも活気にあふれている地区です。



桜木地区まちづくり協議会

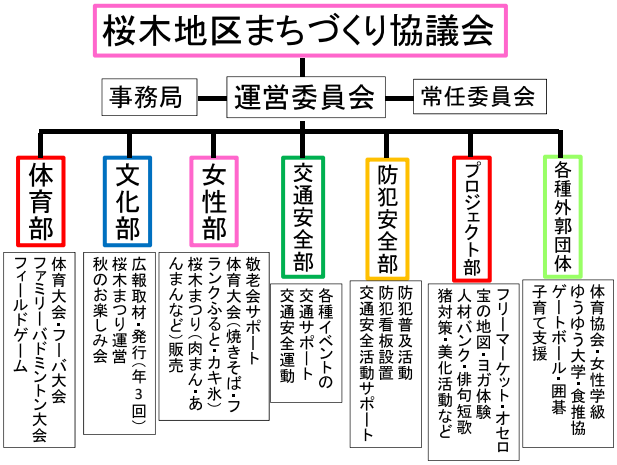
2016年2月に発足
主に新しいイベントを立ち上げたり、地区課題をプロジェクト方式にして活動してきました。

- 桜木わくわく♡フリーマーケット
- オセロ大会
- 桜木宝の地図
- 人材バンク（地区アンケート）
- イノシシ対策
- 緊急情報カード作成　など

波村マイさん～記念講演～

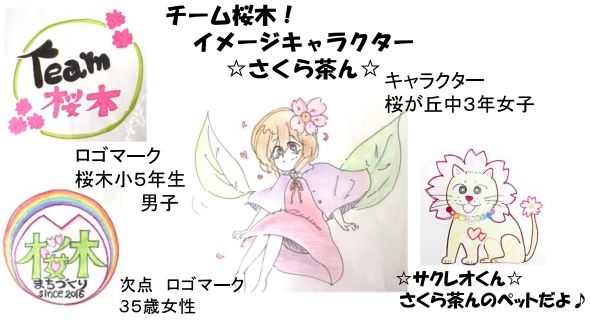
桜木ヤングマン～花は咲く～

桜木地区まちづくり協議会



まち協キャラクター＆ロゴマーク

応募数54点　投票1000票



チーム桜木♡フリーマーケット

特徴：桜木地区の「ヒト・モノ・シゴト」を発信する

今年で４回目を迎える桜木フリマ。桜木地区で活動しているお店やモノづくりの作家さんに出店してもらい、交流を図る事で地区活性化する。また、桜木以外の地区の方にも参加してもらい、新しい地域活性の形を協働で行えるような地盤を作っていく。

「たくさんの大人が見守ってくれるから、子供達が伸び伸びと遊びに行ける場所ができた」との声も上がった。

桜木宝の地図

特徴：桜木地区の魅力を再発見、発信する

豊かな地域資源を再発見し、魅力を地区内外に発信していく事業として、「桜木 宝の地図～神社仏閣編～」を刊行。桜木地区の造詣に親しむと同時にバス桜木線の経路を掲載し、観光＆バス利用率UPを図り地域の活性化を目指す。

「寺社仏閣編」「歴史文化編（予）」「絶景ポイント編（予）」等、カテゴリを分けて発行する事により、多様性のある地域資源を未来に残せるような活動にしたい。

俳句・短歌　ヨガ教室　お楽しみ会

特徴：桜木人の「好き・特技」の発表の場

健康促進事業・文化亢進事業としてのイベントを、継続的に行っている。
その中でも「お楽しみ会」は個人の趣味や特技を発表できるサロン的な役割を担っている。
こうした場がある事で、高齢者の孤立を未然に防いだり、いきいきと楽しく暮らしていけるように、「サポートしあえる環境作り」を維持していく。

地域行事、
どうすればもっと楽しめる？
どすればもっと人が集まる？

桜木サスケ!!桜木地区体育大会
Sports Festival!!

・名称変更
・種目の大幅リニューアル
（地区対抗は団体種目のみ、
自由参加のものを増やし、
幼保園、小学校、中学校に直接募集）
★それいけ！パン食い＆掛川茶飲み競走
　　小学1年～71歳　毎年100名以上参加

・ゆるきゃら撮影会（きんじろうくん・キョーちゃん（ダンス））
・休憩時間に抽選会
・ハロウィン衣装の子供たちにお菓子
・中学生にボランティア（桜が丘中・一部一ボランティア）
・競技メインに「祭り青年対抗リレー」11地区、7チーム
・閉会式にジェット風船（約300名）

桜木サスケ！！メイン競技！！！

魅せろ!! 漢リレー
桜木青年
対抗リレー

大人の本気を
大人が楽しむ姿を
見せる！！

**それがこども達の
未来への希望に
つながる！**

桜木地区体育大会～桜木サスケ

特徴①家族参加型イベント

地区対抗競技→家族参加型競技を増加。
競技の他にもハロウィン仮装やお楽しみ抽選会などで家族ごとの参加を促した。

特徴②子供が集まる場所作り

子供が集まる地区イベントを継続し、地域社会の繋がりの基礎を作る。中学生のボランティア活動や、本気で競技に取り組む大人を見せることで、地域×人のつながりの楽しさを知ってもらう。

まちづくり
☆女性の登用について☆

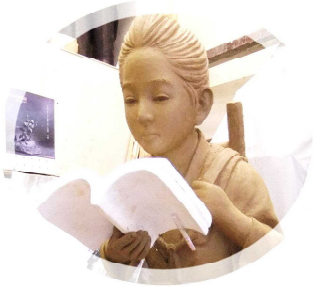
現在運営、事務局、プロジェクトリーダー含め8名

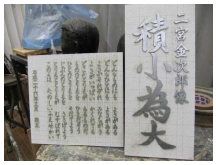
①時間
②家族の協力
③それぞれの良さを活かす

**そして何より本人が
楽しく参加できる！**

桜木小学校　二宮金次郎さん

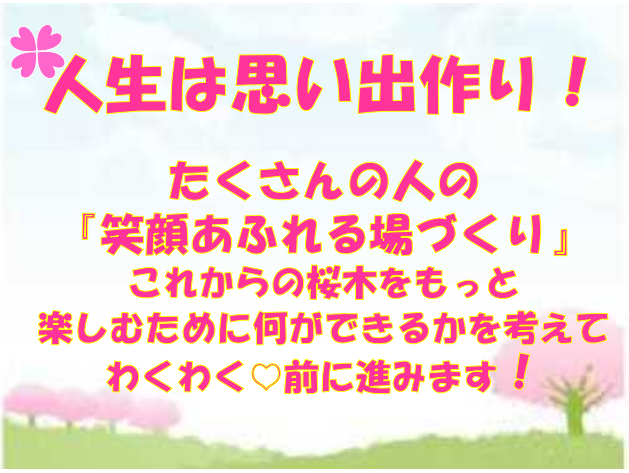
二宮金次郎さん





≪ 万象具徳　以徳報徳 ≫

どんなものにも　よさがある
どんなひとにも　よさがある
よさがそれぞれ　みなちがう
よさがいっぱい　かくれてる
どこかとりえが　あるものだ
もののとりえを　ひきだそう
ひとのとりえを　そだてよう
じぶんのとりえを　ささげよう
とりえとりえが　むすばれて
このよはたのしい　ふえせかい



アドバイザー講評　千野和子

県内でもまちづくり協議会が活躍しているが、若い女性が副会長として活躍しているところは、まだ少ないと思います。様々な年代の方が活動に関わっていて、どうしたら良くなるのかを皆さんで考えながら活動されている様子が伝わってきました。また、それを認めている男性たちも素敵だと思いました。

まだ、まちづくり協議会が、どこか高齢者のためのものという印象が強かったので、とても新しいものを感じました。

また、人材バンクを作ったり、緊急情報カードなど新しいチャレンジがとても素晴らしいと感じました。

今、楽しくということでイベント中心の活動が主なのかなと思いましたが、これからこの人材バンクを有効に活用して、地域の課題などを皆さんで取り組んでいかれたら今後より良くなるのではないかと感じました。

活動している皆さんが「楽しく」なるような、スローガンを立てましょう。

若者や女性が参加しやすい雰囲気づくりを考えましょう。

活動発表②

協働遠州

掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト

「協働遠州」は、「防災」という共通の目的意識をもった複数の団体で立ち上げた市民活動団体です。将来の掛川を担う若者を被災地に派遣するだけでなく、参加者がその学びを発信する活動を通して災害を我がことと認識し、防災意識を持って行動できる人材育成を行っています。

平成30年～31年度掛川市民活動推進事業
（行政課題解決事業）

掛川市災害我がこと意識向上プロジェクト

協 働 遠 州

❊ 事業目的

1.過去の大災害から知識を得
掛川の地で同じ悲劇を繰り返さない

宮古市役所職員による被災状況の説明

大槌町住民が行う高台移転の講話

2.住みやすく安心安全な街づくりを担う
次世代の人材育成と交流

ジオラマを使用した津波実験

モデル作成のお手伝い

（岩手県宮古工業高等学校機械科）

3.訪問先で学んだ知識を昇華し
地元に広く伝える

参加学生が教育機関で防災出前授業

千浜地区・行政（消防・警察）と減災研修

4.被災地で復興に尽力する団体や市民と
交流を深め人脈を広げる

令和元年8月草刈り作業〈単独〉

平成30年8月草刈り作業〈合同〉

高田松原を守る会との協働作業

5.被災地支援活動や掛川特産品を
多くの人に知っていただく

平成29年8月

令和元年8月

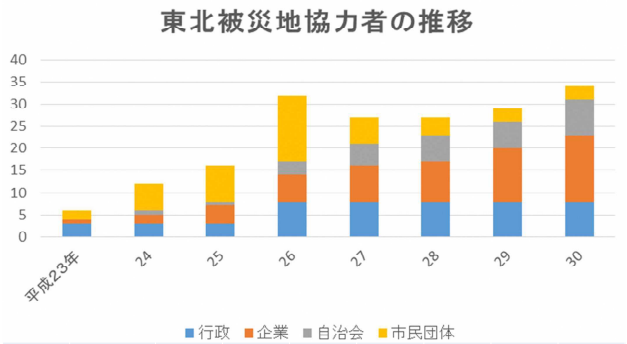
（陸前高田一本松茶屋で掛川物産展）

平成26年8月　陸前高田災害FM

令和元年8月　東海新報社

平成30年　IBC岩手放送

- 報道や論文だけではなく、被災地に出向き復興に取り組む被災者と共に作業し、被災体験を共有することで得られる貴重な情報
- 学んだ事を昇華し、分かりやすく多くの人に伝える体験をすることで、地域の指導者として信頼とプレゼン能力の高い若者の育成
- 掛川市の取り組みを県内外の人々に伝え市及び市民の地位向上の一助とする



	平成23年	24	25	26	27	28	29	30
行政	3	3	3	8	8	8	8	8
企業	1	2	4	6	8	9	12	15
自治会	0	1	1	3	5	6	6	8
市民団体	2	6	8	15	6	4	3	3

❋ プロジェクトの到着点

《他人にやさしい街》

⇩

身内に限らず、周囲にも気配りできる人

⇩

安全で心地よい住環境

SDGsの活動を応援実践します

アドバイザー講評　川端務夢

まず、様々な団体が「防災」というキーワードで集まり次世代を育てていることが、素晴らしいです。情報化社会の中、遠隔地の震災の概要を知ることができても、事実との違いを知らないと本当の人材育成はできません。それが現地視察であったり、次世代が事実を体験するという学習です。そのため被災地に若者を送り出す団体はたくさんありますが、彼らが帰ってきてから、地元にそれを還元するまでをミッションとしていることが、皆さんの素晴らしさです。

最後にSDGsのマークがありましたが、災害は誰にとっても均等に訪れる怖さであり、「防災」はこれから価値観が違う人々がつながるには、共通言語に等しい素晴らしいキーワードだと思います。未来を担う若者に、事実は何なのかという現場をたくさん体験していただくことが、人材育成にはとても大事な要素だと思います。これからも、この素晴らしい活動を続けていただければと思いました。

みんなで共有できる目標を「共通言語」として見つけましょう。

活動の継続のために、次世代をどう育てるか考えてみましょう。

活動発表③

ユニ・チャーム株式会社

ユニ・チャームが目指す
共生社会実現への取り組み

ユニ・チャーム株式会社では、 介護用品やベビーケア用品等の製造だけでなく、健康づくりや環境保全などの社会貢献活動も推進し、掛川市との協定締結、市内企業や地区まちづくり協議会と連携した健康セミナーなどを通じて、市民の皆さんが健康で生き生きと暮らせる社会づくりを目指します。

「協働によるまちづくり活動発表会」
静岡県掛川市

unicharm
NOLA&DOLA

～ユニ・チャームが目指す共生社会実現への取り組み～

2020年1月25日
ユニ・チャーム株式会社

会社概要

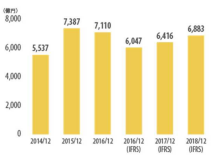
- 設　立：1961年2月
- 社　長：高原 豪久
- 社員数：16,207名（グループ合計）
- 子会社：48社（連結）
- 主要事業：

ベビーケア　フェミニンケア　ヘルスケア　クリーン&フレッシュ　ペットケア

- 生産拠点：
  日本・中国・タイ・台湾-大中華圏・韓国・インドネシア・ロシア・ベトナム・オランダ・サウジアラビア・インド・エジプト・米国・ミャンマー・ブラジル
- 取引市場：東京証券取引所第一部（証券コード 8113）

（2018年12月31日現在）

■ 売上高



■ コア営業利益・営業利益率（IFRS）

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

ユニ・チャームの事業領域

赤ちゃんから高齢者まで、全てのライフステージで
不快を快に変える事業を展開

幼年期 ⇒ 児童期 ⇒ 青年期 ⇒ 壮年期 ⇒ 老年期

ベビーケア　フェミニンケア　ヘルスケア

（掲載商品は一部）

クリーン&フレッシュ

ペットケア

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

ユニ・チャームの企業理念

＜企業理念＞

NOLA&DOLA

Necessity of Life with Activities & Dreams of Life with Activities

赤ちゃんからお年寄りまで、生活者がさまざまな負担から解放されるよう、心と体をやさしくサポートする商品を提供し、一人ひとりの夢を叶えたい

社長メッセージ

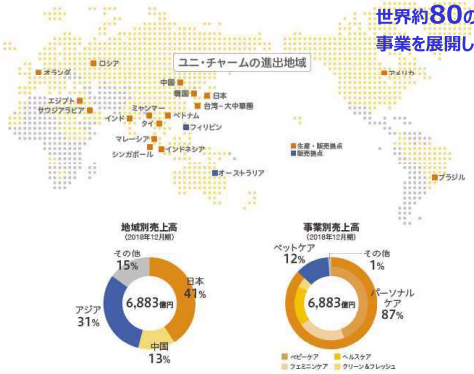
全ての人々が自立と相互扶助によって輝きつづけられる“共生社会”の実現に寄与するために、快適と感動と喜びを与えるような世界初・世界No.1の商品とサービスを提供しつづけます。

代表取締役　社長執行役員
高原　豪久

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

事業展開エリア

世界約80の国・地域で
事業を展開しています。



Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

国内生産工場

写真掲載）ユニ・チャームプロダクツ株式会社
（ユニ・チャーム100%出資の生産子会社）

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

ユニ・チャームプロダクツ㈱静岡工場

1988年4月
静岡工場（掛川市篠場） 操業開始

1988年3月
東海道新幹線 掛川駅開業

静岡工場 主要製品（一部）

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

ユニ・チャームの目指す『共生社会』の実現に向けた取り組み
～社会的課題を解決し持続的な成長を実現～

【ユニ・チャームの重要課題】

❶ 健康寿命の延伸
❷ 女性の自立支援及び衛生改善
❸ 地球環境への貢献
❹ 地域社会への貢献・人間尊重
❺ 組織基盤の強化と公正な事業慣行

重要課題に対する取り組み

E 環境負荷低減、廃棄物の削減
S 地域社会との共創共生、サプライチェーンマネジメント
G OODA-Loop・共振の経営、コンプライアンス、品質管理

BC 育児生活の向上を実現する
FC 女性の快適を科学し、自由を創造する
HC 生命の歓びを追求する
C&F 人・物・場の快適環境を創造する
PC 健康と清潔でペットの暮らし快適に

ユニ・チャームの目指す世界

【企業理念】
NOLA & DOLA
Necessity of Life with Activities & Dreams of Life with Activities

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【健康寿命の延伸】【女性の自立支援および衛生改善】

◆『ライフリー』で健康寿命をささえる

■ 「ソーシャル・ウォーキング※」で健康寿命の延伸に貢献
※「社会参加＆歩行」の造語で、人と関わり、楽しみながら歩くことを誰もが取り組みやすい形にした認知症予防のためのウォーキング （地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所の監修のもと、当社考案。）

ソーシャル・ウォーキング体験会参加人数
1,572名
（2018年12月末現在）

■ 尿もれの不安をなくして外出意欲を促進する商品を提供

◆ペットとの共生社会実現に向けた商品開発

■ 介護が必要な状態となった高齢のペットの生活を少しでも楽に快適にし、最期の時まで幸せであるように

◆「生理だから学校へ行けない」をなくす

■ インド、インドネシア、ミャンマーでの初潮教育プログラムの展開
■ 開発途上国関係者向け「学校保健」研修で初潮教育活動を講義

◆低出生体重児への支援

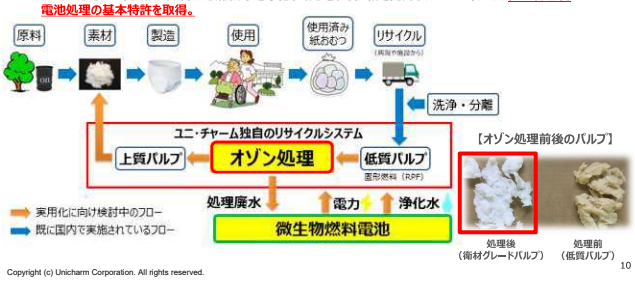
■ 低出生体重（2500g未満）で生まれた赤ちゃんとそのご家族、赤ちゃんの発育を支える医療従事者を支援する「ちいさないのち応援プロジェクト」が「消費者志向活動賞」を受章
■ 1,000g未満の赤ちゃんのための世界最小※おむつ「ムーニー フラットタイプ」新発売

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【地球環境への貢献】

◆ユニ・チャームの目指す紙おむつの循環型モデルの例

■ 処理効率を高めることで、焼却と同等の処理費用に抑えながら、未使用素材と同等のパルプへと再資源化するシステムを実現
✓ 回収した使用済み紙おむつを洗浄・分離し、取り出したパルプに独自のオゾン処理をすることで、排泄物に含まれる菌を死滅させ、**バージンパルプと同等に衛生的で安全なパルプとして再資源化。**
✓ 洗浄、分離時に使用する処理水を再利用し、処理の効率化と排水量の低減化を実現。
✓ 広島大学との共同研究で、再生濃縮排水を浄化して発電する技術を開発し、2017年には、**微生物燃料電池処理の基本特許を取得。**



Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【地球環境への貢献】

◆商品を通じたCO₂の削減活動の取り組み

■ 環境性能が向上した「環境配慮型商品」の概念をさらに発展させて持続可能な社会への適合を推進する上位商品を「エコチャーミング商品」として定義。基準をクリアした商品は158品目
（2018年12月現在）

◆工場における廃棄物削減の取り組み

■ 紙おむつの製造工程で発生してしまう廃棄物などを商品化し、埋立廃棄物ゼロを実現
■ 海外においても、タイ現地法人で埋立廃棄物ゼロを実現

◆生鮮食品の食品ロス削減の取り組み

■ 余分な水分のみを吸収し、空気を通す「フレッシュマスター」で鮮度の劣化や変色を防ぎ、精肉（約3日）・鮮度（約6日）の食品ロスに貢献

◆再生可能エネルギー利用100%を達成

■ ブラジル工場では電力を全て再生可能エネルギーを活用し、CO₂排出量削減活動を推進

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

ユニ・チャームの共生社会実現への取組み

～掛川市における「協働によるまちづくり」活動事例～

「©掛川市 茶のみやさんしろう」

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
商品・サービスを通じた地域社会との連携

お子さんの健やかな成長へ「子ども・子育て支援」事業参画

■ 市民にお子さんが誕生した時に新生児用紙おむつを贈呈する子育て支援事業へ参画。子どもの健やかな成長や子育て家庭の負担軽減を図りながら、商品・サービスを通じた地域社会への貢献活動として実施中。

（2016年4月1日より開始）

【出生届時にお祝いの品として紙おむつの無償提供を実施】

（2018年6月には、**2,000**人を達成）

子育て支援 出生祝い2,000人達成セレモニーの様子（掛川市役所にて）

出生お祝い贈呈者数：累計で**3,383**人へ提供
（2019年11月末現在）

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
地域社会が抱える課題解決へ本業を通じて貢献

持続可能なまちづくりへ「包括連携協定」締結

■ 相互の連携を強化し掛川市における地域活性を目的として子育て支援、健康増進など7分野における**「包括連携協定」**及び災害時に生活必需品の供給を行う**「かけがわ防災パートナーシップ協定」**を締結。

締結式の様子（2017年2月掛川市役所にて）

包括連携協定7分野

❶災害対策及び防災に関すること
❷子ども・青少年の育成支援及び子育て支援に関すること
❸健康増進に関すること
❹環境保全に関すること
❺高齢者・障がい者の支援に関すること
❻女性の活躍推進に関すること
❼その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
被災地支援

もしもの備えへ「かけがわ防災パートナーシップ協定」締結

■ 災害発生時には生活必需品である、子ども用・大人用紙おむつ、生理用品、マスク等の衛生用品、ペット同行避難を想定し、ペット用品・フードを供給できる体制を構築。
市民の皆さんの、もしもの備えとして「安全・安心」へ貢献します。

例）災害時の緊急支援物資

もしもの備え

地震・洪水などの
自然災害へ備えて
協定を締結

【緊急支援物資を積み岡山県内被災地へ】

【平成30年7月豪雨】

被災地支援事例
- 東日本大震災
- 熊本地震
- 平成30年7月豪雨
- 令和元年台風19号

など被災地支援を実施

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
健康増進へ生涯お達者市民推進プロジェクト参画

認知症予防プログラム「ソーシャル・ウォーキング®」体験会開催

健康長寿の三要素

- 掛川市
- 地区まちづくり協議会
- NPO法人掛川市体育協会
- つま恋リゾート彩の郷
- その他各団体

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
これまで参加いただいた「まちづくり協議会・団体」

【掛川市（徳育保健センター）】

【曽我地区】

【大坂地区】

【南郷地区】

掛川市内で実施した
- これまでの開催数 10 回
- 参加者数 471 人
- 歩いた距離 1,168 Km

【上内田地区】

【NPO法人掛川市体育協会】

【杏林堂薬局・つま恋リゾート彩の郷】

【東京女子医科大学 大東キャンパス】

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
まちづくり協議会の皆さんとの協働企画」

主催：大坂地区まちづくり協議会

「ソーシャル・ウォーキング®」を住民の方々が習慣化するためには、身近な場所で、その楽しさを実感する機会が重要となります。
「ソーシャル・ウォーキング®」体験会は、その考え方を学ぶ【講義編】と、歩き方を体験する【実技編】の２部構成で実施しています。

【実技編】
（ノルディック・ウォークを体験）

【大坂地区まちづくり協議会】

「©掛川市 茶のみやさんじろう」

【講義編】
（認知症の基礎知識を学習）

「生涯お達者市民」推進プロジェクト 目標値（一部）
お達者市民の目標人数：29,000人（R2.3.31時点）
26,025人（H26年度）⇒ 28,588人（H31.3.31現在）
（65歳以上で要介護度1以下の人数）

データ引用先：掛川市健康医療課資料

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

【協働によるまちづくり】
その他 地域社会への貢献活動

介護予防における排泄ケアセミナー開催（のべ市民の皆さん1,000人が参加）

【かけがわ健康フェア（徳育保健センター）】

排泄ケア講座の様子

【掛川市社会福祉協議会（在宅介護の会）】

紙おむつの吸収機能実験の様子

【シニアクラブ掛川】

シニアクラブの方を対象とした講座の様子

その他の連携

【かけがわ健康づくり実践事業所認定】

社員の健康増進（静岡工場にて認定式）

【曽我小学校児童の登校時の見守り活動】

交通安全運動期間中の見守り・啓発を継続

【掛川商工まつり 協賛】

元気に"はいはい" 赤ちゃんオリンピック

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

御清聴有難うございました

Copyright (c) Unicharm Corporation. All rights reserved.

アドバイザー講評　千野和子

地球環境への貢献として、ごみ減量につながる「おむつリサイクル」という、とてもタイムリーなお話を聞かせていただけました。

ユニ・チャームさんは、グローバルな社会貢献活動から地域の社会貢献活動まで、幅広く活動されております。松井市長の挨拶にもあったように、掛川市は、総合計画の中に「SDGs」の取り組みを積極的に入れていくということでした。

今回発表いただいた認知症予防プログラム「ソーシャル・ウォーキング」であったり、様々な社会貢献活動にも「SDGs」を取り入れられており、その目標設定を地域と一緒にしていくことで、今後ますます地域貢献活動が進んでいくと思いました。

活動発表④

京都府城陽市
青谷コミュニティセンター運営委員会

青谷コミュニティセンターの取り組み

今回ご縁がありまして、掛川市の協働によるまちづくり活動発表会へ参加させていただきました。組織の成り立ちや、取り巻く環境は異なりますが、皆さんと同じように、仲間づくりや生きがいづくり、住んで良かったと思えるまちを住民自らの手でつくっていこうという思いで取り組んでおります。

❀城陽(じょうよう)市ってご存知ですか？

京都府の・・・

五里五里のさと

南部に位置します。

面積：３２．７１ｋ㎡
人口：７４，７３１人（３０，３０６世帯）
気候：年平均１３℃　比較的温暖

❀城陽市は今、絶賛発展中です。

城陽インターチェンジと新市街地（サンフォルテ城陽）

- 新名神高速道路：令和5年度全線開通
  →城陽市が近畿圏と中部圏をつなぐ交通の要衝に
- サンフォルテ城陽：好立地を活かし19.8haを区画整理
  →日本郵便をはじめ、新たな企業が進出

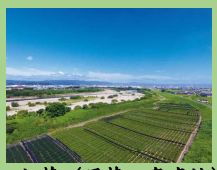
アウトレットモールの開発

- 山砂利採取場の跡地を開発
  →負の遺産から市の活性化へ
- 新名神高速道路のスマートICを直近に設置
  →広域圏からの集客を見込む

サンガタウン城陽

- 京都サンガF．C．のホームタウン

❀城陽市の特産品は・・・



お茶（碾茶の名産地）

金銀糸（西陣織など）

いちじく（京都市場90%）

梅林（青谷が有名！）

❀青谷(あおだに)ってどんなところ？

春は青谷から！！

▶ 梅まつり

青谷地区に広がる青谷梅林では、2月下旬～3月下旬まで梅まつりを開催しており、市内外から毎年約3万人が訪れます。

満開の梅の花に囲まれ、おいしい梅グルメに舌鼓を打つ。見て楽しい、食べて楽しい、春の訪れを告げるイベントです。

▶ 城州白（じょうしゅうはく）

青谷の梅は「城州白」という品種を主に生産しています。城州白は肉厚で桃のような香りがすることから、梅干しのみならず、地元酒造やスイーツ店で梅酒やお菓子にも利用されています。

❀もっと青谷のことをご紹介！

（地区人口:5，151人）

青谷の展望

城陽市の中では都市化があまり進んでおらず、田畑も多い地域で、古い家並みも残っています。

そのため、地域の人のつながりが強いところが魅力です。

松本神社
（嵐の聖地？）

新旧の家並みが共存

❀青谷コミュニティセンターってこんな施設です

❀青谷コミュニティセンターの紹介

・開館：平成7年9月

・構造：鉄骨造3階建て

（1階）市民ギャラリー、事務室
（2階）講習室、調理実習室、図書室
（3階）集会室、軽運動室

・特色：JR駅舎（山城青谷駅）との合築
JR奈良線の駅舎と一体化
全国的にも珍しく、駅機能の向上と駅前の活性化にも大きな役割を果たします。

電車の待ち時間にも使えます。

・職員：館長（市の嘱託職員）
コミセン指導員 3人
図書職員 3人

・主な仕事
①貸館の予約受付
②図書の貸出
③施設の維持管理
④コミュニティ事業の企画・運営

年間40，221人が利用しています。

この施設は、実は・・・
コミュニティセンター運営委員会が市の委託を受け、運営しています。

❀城陽市コミュニティセンター運営委員会とは？

- 城陽市内にある6つのコミュニティセンターを拠点に活動しており、それぞれが地域のニーズに合わせた事業を実施しています。

令和元年度 コミセン交流グラウンドゴルフ大会 記念撮影

北部コミュニティセンター　南部コミュニティセンター　今池コミュニティセンター
東部コミュニティセンター　青谷コミュニティセンター　寺田コミュニティセンター

運営委員＋専門委員　総勢３０５名のマンパワーが地方創生を担う！！

❀城陽市コミュニティセンター運営委員会の成り立ち

1．きっかけは人口の急増

昭和30年代後半からベッドタウンとして発展

昭和26年（町制）	14，000人
昭和47年（市制）	44，123人
昭和55年（北部コミセン）	74，350人
平成 7年（青谷コミセン）	85，398人
令和 元年（現在）	74，731人

※平成7年をピークに人口減少へ

2．コミュニティ作りが課題に

急激な人口増加による都市化

→施設の整備に追われる
（ハード偏重）

●課題
・新しい住民が地域に溶け込めない
・地域の連帯感の希薄化
・ふるさと意識の醸成の遅れ

→ 新住民と旧住民の融合の場を

❀城陽市コミュニティセンター運営委員会の成り立ち

3．市のコミュニティ施策

生活基盤の整備が進み、都市として成熟

→次は、心の通い合う地域社会の実現へ

●コミュニティセンターを整備（昭和55年～）
・福祉、教育、文化など各領域にわたって使用
・市民の交流を深める
・子どもの健全な育成を図る
・高齢者の憩いの場
・女性の文化、社会活動のために活用

→ 今度はソフト面の充実が求められる

4．運営委員会方式を編み出す

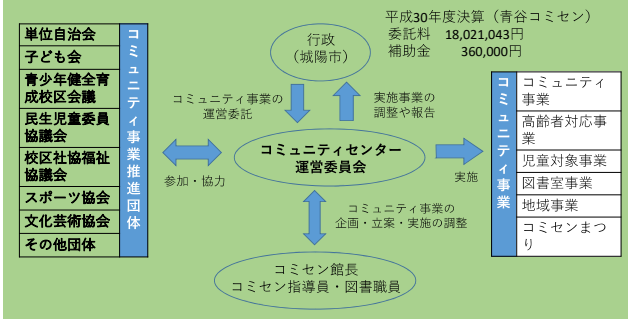
●必要なことは
・市民の自主的なコミュニティの形成
・地域のニーズに合ったコミュニティ事業の実施

→市主体では地域の実情に合わせた運営は難しい

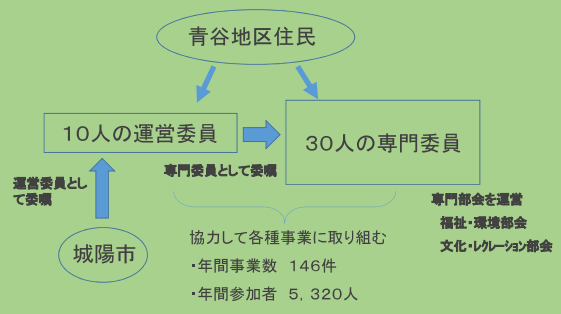
簡単に言うと・・・
市の直営では、かゆいところに手が届かない

→ だったら、
地域住民の手で運営してみる

❀城陽市コミュニティセンター運営委員会　組織図



❀青谷コミュニティセンター運営委員会とは



❀青谷コミュニティ事業はこんなことをしています。

●ある月の事業をご紹介（平成30年9月）

実施日	曜日	時間	内容	人数	区分
9月2日	日	10:00～13:00	料理講習会.蕎麦打ち体験 ～越前そば豊かな香り～ 講師：奥村茂氏	26	福祉・環境部会主催
9月6日	木	13:30～15:30	医療・健康講座～脳卒中～ 講師：小泉美貴氏	27	
9月8日	土	9:30～16:30	もの作り体験 生地から作る生八つ橋作りとコカ・コーラエ場見学	20	文化・レクレーション部会主催
9月11日	火	10:30～11:30	親子であそぼう 講師：多治見宏子氏	16	子ども向け事業
9月12日	水	13:30～15:00	みんなの歌ひろば～食のうた～ 講師：瀬村洋平氏 小野文氏	42	いきいき健康推進事業
9月22日	土	13:00～15:00	みんなの将棋ひろば～老若男女集いましょう～	5	
9月22日	土	18:30～20:30	お月見ライブ～月のうさぎに誘われてフォークソングに浸りましょう～ 演奏：ひょうたん島	69	
9月25日	火	8:40～16:45	ハイキング ～彦根城・玄宮園見学.彦根城周辺散策～	30	文化・レクレーション部会主催
9月25日	火	10:30～11:30	親子であそぼう 講師：多治見宏子氏	3	子ども向け事業
9月25日	火	13:30～15:00	唱歌のつどい～虫のこえ・とんぼのめがね～ 講師：山本千景氏	41	

❀青谷コミュニティ事業の様子をご紹介

唱歌のつどい（4月）

ﾁｮｰｸｱｰﾄ（7月）

お月見ﾗｲﾌﾞ（9月）

ﾗｲﾝｽﾄﾚｯﾁ（7月）

もの作り体験（9月）

ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ（12月）

コミュニティ事業からサークルが立ち上がるまで

●パソコンサークル

★2つのサークル「プラム」と「ダブルクリック」ができるまで
パソコン講座をコミュニティ事業の一環で実施
→事業参加者の交流が深まり、パソコンサークルを立ち上げる。
・講師を務めていた運営委員の助力
・昼（プラム）と夜（ダブルクリック）の月2回、定期的に活動

他の団体との協働事業にも取り組んでいます

●青谷クリーンプロジェクト

京都府立城陽支援学校との協働事業
→支援学校の生徒と一緒に、コミセンをきれいにします。

・コミュニティを広げたい
・館をきれいにしたい

運営委員 ⇔ 支援学校

協 働

・地元の人とのつながりをもちたい
・社会に出る経験を積みたい

1年で最大の事業　梅まつり

●総勢40名の委員と地元の団体や企業が総出演！！

平成30年度は…　大盛況！！
3月2日（土）・3月3日（日）開催
模擬店　1，171人
ステージ発表　622人
作品展示　367人
延べ 2，160人が参加！　梅も満開！

これまでの取り組み
・支援学校の生徒製作の抹茶椀でお茶席
お茶は地元の製茶工場より仕入れ
茶菓子は地元の和菓子屋より仕入れ
・地元酒造から酒粕の提供を受けて甘酒の振る舞い
・地元農家からもち米を仕入れ、餅つきや赤飯

今後の展望と課題

・今後の展望について
地域の核となる施設・組織を目指す。
→地域の団体との連携の強化
→地域社会の様々な問題（高齢化・災害等）に対応

・課題
後継者の不足、地域を引っ張るリーダーの育成
地域住民の参加を呼びかけ、地域コミュニティを活性化
→人材の発掘
→施設の利用者を増やす

アドバイザー講評　川端務夢

掛川の皆さんに、青谷の皆さんの取り組みが有意義に伝わるようにお手伝いをさせていただきます。

急激な人口増加により、「新住民と旧住民の融和」に、大きなエネルギーを費やされたと思います。生まれ育った環境が人格をつくり、楽しいこと欲しいものも違ってきます。その中で、同じ方向を向きながら地域を活性化させていくエネルギーは計り知れないものだったのではないかと思います。そんな中で地域コミュニティの活性化だけでなく、市の委託を受け、経済的な自立も目指している点に関して、これから掛川でも参考にしなくてはならないと思います。

また、どこの地区でも言われる後継者不足問題ですが、これから求められるのは、こうあるべき論を唱える人が牽引していくのではなく、みんなで何が良いのか考え合う仕組みづくりの中に、その時のリーダーが出てくる瞬間がある。そんな形を目指していけば、より一層素晴らしい地域づくりが進んでいくのではないかと思います。

地域の課題を見つけて、協働できる企業・団体を探してみましょう。

新しい地域のリーダーを育てるために、考え合う仕組みづくりを考えてみましょう。

アドバイザー全体講評（千野和子）

毎回新しいことがあり、層の厚さに感心しています。アドバイスというより、感想ですが３つのキーワードでお話しします。

災害時における協働

協働は日常的に推進されるものですが、災害時には様々なボランティアが市外・県外から入ってくるため、その活動をコーディネートすることが求められます。昨年内閣府が出した防災計画の中には、行政、NPO、ボランティアの３者連携が強く求められています。災害時における協働は、その際のコーディネートが重要になります。地区まちづくり協議会や行政、NPO、ボランティア、そして企業との災害協定が同時に進行していかなくてはならない事態になるかと思われますので、今後の協働の課題であると感じました。

ＳＤＧｓ※

「ふじのくに未来財団」では、寄付を集めて市民活動団体の助成を行っています。寄付をしていただいている企業もそれぞれ「SDGs」と関係した課題を設定しており、助成事業も何の課題解決のためにやっているのか「SDGs」を付して実施しているところです。「SDGs」は、そういったコミュニケーションツールとしても活用され始めています。皆さんの活動も「SDGs」との関係性を強めていっていただくことで、様々な組織との連携が生まれると思います。

コミュニティ

京都の事例は素晴らしいと思いました。地区のセンターを地域の拠点としてコミュニティづくりにつなげています。静岡県内では、沼津市で地区センターを地域のまちづくり協議会が運営し、大きな公園の運営管理にも地区まちづくり協議会が強く関わっています。このように、自主財源を求めようとコミュニティビジネスを始めるなどの、社会実験も始まっているところです。

アドバイザー全体講評（川端務夢）

曖昧で不確実な時代

経済界では、今までの成功事例が成り立たないくらい曖昧で不確実な時代に入ってきていると言われています。増大した人口に合わせた経済的な営みが、急激な人口減少により、それらの営みを維持することばかりに神経がいき、何をして良いのかわからなくなるといわれています。これはまちづくりでも同じで、人口減少の加速はこれから皆さんに重くのしかかってくる要素であります。増えれば良いという方もいますが、そこには違う性格・価値観の方達が入ってくる不安さがあります。

共通言語を持つ

ここで大事なのは、2015年に国連が誰も取りこぼさない、全ての人が幸せになるための指針「SDGs」を世界の共通言語として発表したことです。言語が違っても目指すところは同じということです。協働遠州さんの「防災」は、「SDGs」と似た共通言語です。災害は誰しもが困るものですから、地域住民の皆さんが共通言語として取り入れ、手を取り合って取り組まなくてはなりません。

３ステップ

そこで問題となるのは、人が流動的になったことです。つまり、地域づくりのためには、相手を理解する時間によりエネルギーを要するということです。次世代を導くためにやっていただきたいことは、まず「見る、見つける」ということです。物事の概要を見る、その問題の根幹を見つけるという作業をしっかり行ったら、ある固定のリーダーがこうあるべき論で話さずに、そこに多くの方が関わりながら、解決策を考える。そして、共に行動する。この３つのステップを繰り返すことで、地域住民がより一層仲良くなる幸せな地域づくりができるのではないかと考えます。

次のステップへ

希薄になった人間関係を基に戻すために、皆さんアイデア満載のイベントを開催されています。そこまで来たら、次のステップも念頭に入れていただきたい。今度は、仲良くなった地域住民が、いつの日か起こりうるリスクなどを考えながら、次のステップを自力で解決する仕組みを少しずつ作っていくことで、地域住民の幸せにつながるのではないかと感じました。

「幸せ」のために

活動の最終の目的は「幸せ」です。地域住民が均等公平に「幸せ」を得られるためのいろいろなことを考えていただく。楽しいことが、まず重要です。同時に少し大変ですが、真剣に考えることも重要だということを今日の発表から感じた次第です。

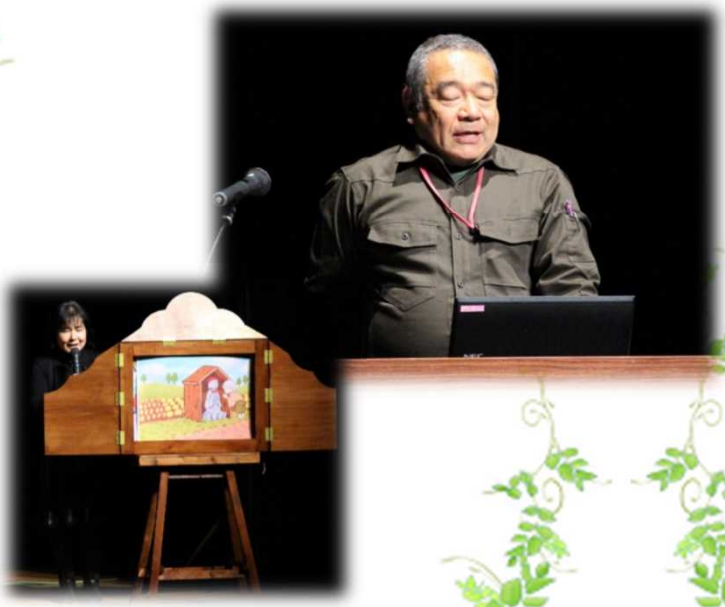
※SDGｓ（Sustainable Development Goals）
2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」です。「2030年世界はこうあってほしい」という姿から設定されている目標で、17の目標（ゴール）と169のターゲットが定められています。
この目標達成に向けて多様な主体による行動が求められています。

発表会場

桜木地区まちづくり協議会
桜木まつりの動画をつくりました！
ぜひご覧ください

報道や論文だけではなく、被災地に出向き
復興に取り組む被災者と共に作業し、被災
体験を共有することで得られる貴重な情報

発表会場



まちづくり活動紹介エリア①

～令和元年度　掛川市民活動推進事業採択団体～

協働遠州

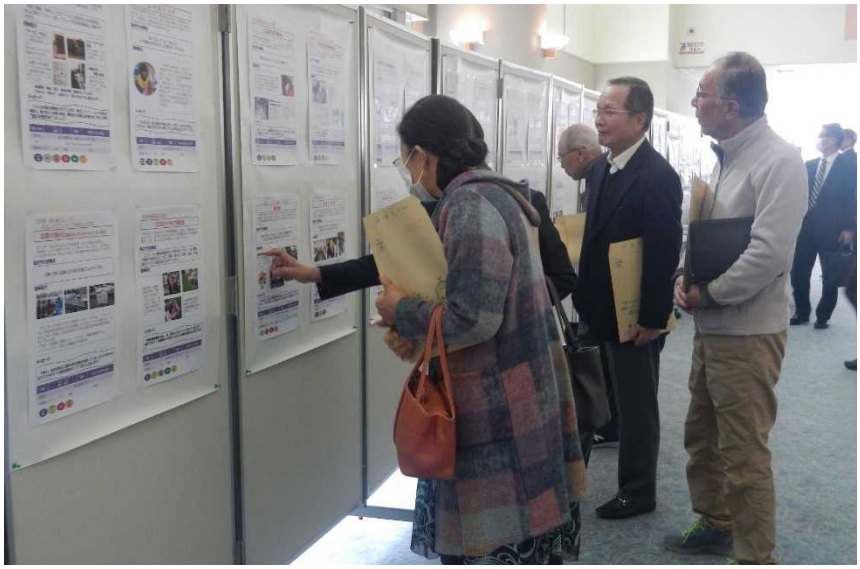
特定非営利活動法人
掛川シニア交流研究会

中村砦城山保全会

特定非営利活動法人
COMPAS

まちづくり活動紹介エリア②

まちづくりの仲間を見つけるガイドブック～市民活動編～



エリア②では、市内で活動する市民活動団体を紹介しました。
紹介内容は、「まちづくりの仲間を見つけるガイドブック～市民活動編～」に掲載しております。
協働の仲間づくりにご活用ください。

まちづくりの仲間を見つける ガイドブック▼ここから▼

令和元年度　協働によるまちづくり活動発表会参加者アンケート　集計結果

参加者：250 回答数：181（回答率72.4%）

（1）あなたの所属する組織を教えてください。

		割合	備考
地区まちづくり協議会、自治会等	140	77.35%	
ＮＰＯ（非営利法人、市民活動団体含む）	8	4.42%	
企業・事業所	1	0.55%	
行政	16	8.84%	
特になし	7	3.87%	
その他	7	3.87%	
無回答	2	1.10%	
計	181	100.00%	

（2）本日の発表に対する感想や印象について、当てはまるものにチェックしてください。

		割合	備考
満足している	59	32.60%	
やや満足している	91	50.28%	
やや不満足	10	5.52%	
不満足	2	1.10%	
無回答	19	10.50%	
計	181	100.00%	

その理由、感想やご意見をお書きください。

満足している

- 実践発表の中に今後の取り組みに向けて参考となる多くのことを知ることができた。
- 桜木の発表は大変分かりやすく、活発な活動内容が理解できた。
- それぞれの発表がとても分かりやすく、学ぶことができた。
- 他市からの参加はとても良かった。
- 他まち協、各種団体、企業との活動とコラボしたい。

やや満足している

- 深みある発表内容がなされたが発表時間がやや短く、今少し聞きたいことが聞けなかった面もある。
- 質問時間がなかった。
- ユニ・チャーム→今や一流企業、社会貢献、地域共生の取り組みは重要。継続を期待。
- スクリーンが暗くて見にくい。配布資料の写真がカラーならもっと良い。
- アドバイザーのアドバイス総評内容が良かった。

やや不満足

- 夜間開催を希望
- イベント行事活動が主で、問題解決のための活動事例が欲しい。

不満足

- これは！という活動に絞った発表を聞きたかった（苦労話ではなくトライ＆エラーの実例）

（3）発表を聞いて参考にしたい、実行してみたいと思ったことはありますか？

- 多様な住民のつながりを作る方法が参考になった。楽しいイベントや講座がつながりのきっかけになることが解り、何か企画してみたいと思った。
- ユニ・チャームさんのまち協との協働企画「ソーシャルウォーキング」。その他市内企業の協働事業があれば知りたい。
- 桜木地区の女性(30代～40代)の活動、子ども達、青年達をうまく参加させる取り組みはとても参考になった。楽しく、おもしろく行動しよう。
- 災害の時はボランティアで作業に出向きたいと思う。
- 子どもへのまちづくりの説明。未来の参加応援。

（4）あなたがまちづくりを行うにあたって、抱えている課題を教えてください。当てはまるもの全てにチェックしてください。

	合計	内訳			
		まち協等	NPO	行政	その他
会員不足	28	20	1	3	4
役員のなり手不足	140	117	3	11	9
資金調達	41	31	2	6	2
情報発信力	25	18	1	3	3
他団体情報不足	22	21	0	0	1
外部人材・ネットワーク不足	33	26	0	2	5
事務能力	26	20	0	3	3
意見集約、合意形成	32	26	0	3	3
何をしてよいか分からない	22	20	0	1	1
その他	14	9	0	1	4
その他回答：高齢化、自治会との住み分け（二重）、一部の人だけなど					

（5）希望する発表会の開催方法について、ご意見をお聞かせください。

①内容

	合計	内訳			
		まち協等	NPO	行政	その他
事例発表会	105	90	3	8	4
意見交換会（ワークショップ）	57	44	2	7	4
団体交流会	32	24	3	2	3
講演会	37	27	2	3	5
その他	5	0	0	0	5
その他回答：パネルディスカッション、子どもの発表、開催不要、市の展望説など					

②会場規模

	合計	内訳			
		まち協等	NPO	行政	その他
約400人（大ホール）	59	50	1	2	6
約200人（小ホール）	80	60	6	8	6
100人以下（会議室等）	23	15	1	6	1

あなたの夢、
描いたつづきは
掛川で。

編集発行　まちづくり協働センター
（掛川市生涯学習協働推進課　協働推進係）
〒436-8650　掛川市長谷一丁目１番地の１
ＴＥＬ：0537-21-1129　ＦＡＸ：0537-21-1165
令和２年３月発行